

『ユダの福音書』 — 原始キリスト教におけるその位置づけ (要約)

2007/2/3

荒井献

はじめに

クロスニー著『ユダの福音書追え』日経ナショナル ジオグラフィック社、2006年

カッセル、マイヤー、ウルスト、アーマン編著『原典 ユダの福音書』同上

荒井献「「正統」のユダ、「異端」のユダ」『ナショナル ジオグラフィック』2006年9月号

付録「新解説 ユダの福音書」

荒井献「この人・この3冊」(ユダをめぐる著書)『毎日新聞』9月17日朝刊「今週の本棚」

荒井献「信なき者の救い — ラスコリーニコフとイスカリオテのユダ」『群像』別巻(特集

「大江健三郎」1995年(『聖書のなかの差別と共生』1999年、岩波書店；『荒井献著作集』第9巻、岩波書店、2002年所収)

荒井献『ユダとは誰か — 原始キリスト教と「ユダの福音書」におけるユダ』岩波書店、

2007年5月出版予定

荒井献『ユダのいる風景』(双書「現代のカルテ」)岩波書店、2007年6月出版予定

一 『ユダの福音書』

1 コプト語「チャコス写本」の作成とギリシア語原本の成立。

2 「対話」形式による『ユダの福音書』

「イエスが、過越祭を祝う三日前、八日の間に、イスカリオテのユダと語った、隠された啓示の言葉」。

(33)

3 「完全なる人間」 — 「真の私」

「あなたが誰か、どこから来たのか、私は知っています。あなたは不死のアイオーン・バルベーローからやって来ました。私にはあなたを遣わした方の名前を口に出すだけの価値がありません」。(55)

4 「13番目のダイモーン」

「だが、お前はすべての弟子たちを超える存在になるであろう。なぜなら、お前は真の私を担う人間を犠牲にするであろうから」。(56)

二 原始キリスト教におけるその位置づけ

1 ユダの「裏切り」の度合い

2 イエスのイニシアティブの度合い

3 ユダの「悪魔」化

4 ユダの「復権」

おわりに